

R33b CFHT/MegaCam によるヘルクレス座銀河団の矮小銀河の観測

川崎 渉 (国立天文台)

CFHT/MegaCam を用いて行ったヘルクレス座銀河団の観測結果を報告する。MegaCam は、ハワイ・マウナケア山頂の口径 3.6m のカナダ・フランス・ハワイ望遠鏡 (CFHT) の主焦点用に開発されたモザイク CCD カメラである。2k × 4.5k の CCD を 36 枚 (最終的には 40 枚になる予定) 搭載し、約 1 平方度の領域を撮影することができる。2004 年より本格的な観測が開始され、広視野を生かした大規模なサーベイ観測 (RCS2:2004 年秋季年会) などのために用いられている。今回は台湾への割り当て時間を用いてヘルクレス座銀河団の観測を行った。

ヘルクレス座銀河団は、いわゆる不規則型銀河団の典型例であり、かみのけ座銀河団のような規則型銀河団とは対照的な姿をしている。特徴として、はっきりした中心を持たず、幾つかの substructure に分かれていることや、晩期型銀河や相互作用銀河の割合が高いことなどがある。これまでは明るい銀河の観測による substructure 同士の衝突に目を向けた研究が多かったが、今回はこの銀河団の矮小銀河の性質を調べることをひとつの目的として、 g',r' の 2 バンドによる観測を行い、 $M=-13$ 程度までの矮小銀河を観測した。

本年会では、主にヘルクレス座銀河団の矮小銀河の測光的な性質について発表する予定である。